

からくん

〔百千鳥<sub>下</sub>〕からくん 餌がい 玄米、菜

大きき毛色鳥形世にゑることしきたなきもの也。玉子は廿七八日にて開かへりたてば、中々足のよわき物にて、一日は殊之外よろつく物なり、玄かしつよきものにて飼よし、飼立やうは菜をこまかに切、當分は小米を水につけ、其内へ菜も交飼ふべし、よわき子には、うなぎのすりゑをわり飼にすべし、開りて取出したる日は、よろしくして、餌もろくに喰ぬものゆへ、二度ばかり摺餌をわりて喰すべし、すい分餌をちいさくしてかため飼るよし、虫もよし、多はあし、

〔飼鳥必用<sub>中</sub>〕カラクン

此鳥紅毛人持渡、長崎出鳥屋敷 江 飼置き、世上にも流布の鳥也、此鳥の飼方紅毛人尋しに、すり餌に玉子を入、ひともじを割、飼置候よし、勿論米も粒餌飼致との事、細々に教しかど、出鳥にては飼置たるを見れば、米と飯とを焼物に入飼置、了簡可有候事、此鳥の羽莖を以筆を拵へ、紅毛人文字を書肉玉子は至て賞味候よし、客人 江 料理するに、甚厚馳走に成るよし、本朝にて鶴を料理すると同じ事の由、産巢には雄三才の内胸にかもじ、羽不出、貳才の内にてなければ、つごう事不成、三才以上は身重くして、つごう事不叶、玉子は三十二日目にかへる也、三分餌に菜の葉交て飼也、餌至而強くしては飼方ならず、頭に腫もの出来て不宜、いづれにもひともじは大好物也、いたみたる節是用べし、

ありすい

〔喚子鳥<sub>上</sub>〕ありすい ふがい 生ふ壺、あをみ入、粉壺、夕

大ききひよ鳥にちいさくほそし、け色ねずみにゑらけ、ふくろうのふにいたり、舌を出し、へびのごとし、足貳本づ、ふみわけなり、さるづりほそし、

〔飼鳥必用<sub>下</sub>〕大鶴 大鶴、小有水

此鳥秋春よく渡る鳥也、三四月比までは、所々にも飼置ものなり、尤時々たるを見たることなし、